

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	2025年 9月 15日		～	2025年 10月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 15日		～	2025年 10月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業所向け自己評価表作成日	2025年 11月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者一人ひとりのニーズや状況を深く理解し、画一的ではない柔軟で個別化されたサービスプラン	客観的な評価と課題抽出を行っています。 これにより、支援の「型骸化」を防ぎ、常にベストな支援を追求しています。	記録作成や情報共有をICT化することで、職員の間接業務負担を軽減し、利用者に関与する時間を最大化します。これにより、強みである「個別対応力」をさらに強化します
2	経験豊富なベテラン職員と意欲的な若手職員のバランスが良く、多様な知見と活力を保持しています。	技術だけでなく、事業所の理念や価値観を共有することで、質の高い人材育成を体系的に行っています。	特に最新の知見が必要な分野（例：強度行動障害への対応）について、外部講師による専門性の高い研修を四半期ごとに実施し、全職員の知識レベルの底上げを図ります。
3	積極的に研修に参加し、最新の知識・技術を取り入れる姿勢があります。	入社員研修、既存職員向け研修、リーダー研修など、スキルレベルに応じた体系的な研修を実施し、全職員の質の担保とステップアップをサポートしています。	研修で学んだ最新の支援技法を、実際の利用者ケースに当てはめて検討する時間を設け、知識を「使える技術」へと昇華させています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的な知識・技術の標準化と定着	職員の研修参加意欲は高いものの、研修で得た最新の知識や技術が、日常の支援や他の職員への指導を通じて事業所全体で均質に共有・活用されるまでの仕組みがまだ不十分。	知識の定着を促進し、事業所全体で支援の質を均一化する。
2	記録・情報共有の効率性	利用者の支援記録や連絡事項の作成に手作業や紙媒体が一部残っており、記録に時間がかかったり、リアルタイムでの情報共有に遅れが生じたりする場合があります。これにより、本来利用者支援に充てるべき時間が圧迫されています。	記録作成にかかる時間を短縮し、利用者支援への時間を増加させる。
3	保護者への情報提供の強化	日常的な連絡は円滑ですが、個別支援計画の意図や、家庭で実践できる具体的な支援方法（ペアレント・トレーニング等）について、保護者にさらに深く理解してもらうための体系的な情報提供や教育機会が不足している可能性があります。	家庭と事業所での連携を強化し、支援効果を最大化する